

## 目次

まえがき .....	iii
① 経験科学としての美学の成り立ち .....	1
1.1 美学のはじまり	1
1.2 実験美学—知覚として測定可能な美	4
1.3 新実験美学—行動に表れる快としての美	6
1.4 その後の発展	12
② 美の進化的起源 .....	14
2.1 普遍的な美はあるのか	15
2.2 風景の好みと環境の自然選択	18
2.3 性選択とメスの審美眼—ダーウィンの主張	23
2.4 カモフラージュ説—ウォーレスの主張	27
2.5 美はなにかの信号なのか	31
2.6 「突っ走る」シュールリアリズム	35
2.7 メスは合理的な判断をするのか	38
2.8 母子関係と美	39
2.9 性選択としての美の意味するもの	40
③ 美の神経科学 .....	42
3.1 脳の中の快感	42
3.2 美を感じる脳	46
3.3 すべての美は同じものか	49
3.4 どのような変化が起きるのか	52

3.5	脳損傷の不思議な効果—逆説的機能促進	54
3.6	これからの神経美学	56
④	動物たちの芸術的活動	57
4.1	美しい鳥の巣	59
4.2	ニワシドリはなんのために巣をつくるか	63
4.3	鳥の歌は音楽か	67
4.4	動物の芸術的行動とヒトの芸術の違い	69
⑤	動物に芸術を教えられるか	71
5.1	チンパンジーに絵を描かせる	73
5.2	ゾウに絵を描かせる	77
5.3	音楽をつくるか	79
5.4	動物芸術の限界	80
⑥	動物はヒトの芸術を見分けられるか	82
6.1	漫画を見分けられるか	82
6.2	画風を見分けられるか	86
6.3	上手下手がわかるか	94
6.4	音楽の弁別	97
6.5	どのような動物が絵画や音楽を弁別できるか	104
⑦	動物はヒトの芸術を楽しむか	106
7.1	絵画の強化効果	108
7.2	音楽で快感を得るか	112
7.3	動物のための音楽を	121
7.4	感性強化としての美に種を超えた普遍性はあるか	123
⑧	洞窟絵画の謎	125
8.1	洞窟絵画	125
8.2	なにが描かれているのか	128

8.3 岩 絵	129
8.4 ボディ・ペインティングから絵画へ	131
8.5 アートに先立つ美意識はあったのか	132
文 献	134
あとがき	140
美の心理学（コーディネーター 長谷川寿一）	142
索 引	147

